



## 1. 園の保育目標

『 何事も、自分から進んでやる子ども 』の育成

子どもが自ら学び、伸びようとする力を大切に、「何事も、自ら進んでやる子」を育てる

- お友だちと仲良く遊ぶ子
- 生き生きと元気で丈夫な子
- 創造性の豊かな子
- 思いやりのある子
- 自分で考えて行動できる子
- 何にでも生き生きと興味を持つ子

## 2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

子どもの主体性を重視した保育の展開を目指す。平成30年度の目標を「子どもの気持ちを深く感じとり、共感し、応答しながら「学び」の基礎を育てて行きましょう」とし、保育者一人ひとりが個々の子どもに眼を向けて、子どもの心もちに触れ、安心感の中で様々な学びを自ら発見していけるような保育を目差す

## 3. 具体的目標・計画

### ① 保育の内容について

#### ☆クラスの取り組み・目標

- ・ 0歳児 保育士と安定した中でよく遊びよく食べよく眠ろう  
(周囲の大人との愛着関係、十分に養護の行き届いた環境のもとくつろいだ雰囲気の中で様々な欲求を満ちし、生命の保持及び安定を図る)
- ・ 1歳児 個々の生活に合った生活リズムを大切にしながら、保育士と安定した関わりの中で、好きな遊びを見つけて楽しもう  
(健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う)
- ・ 2歳児 保育士や友だちと一緒にたくさん遊び、強い体と心をつくろう  
(生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う)
- ・ 3歳児 様々な経験・体験を通して心も身体も強くなろう  
(いろいろな経験の中で感動できる感性を磨き、創造性の芽生えを培う)
- ・ 4歳児 様々な経験を通して自分の思いを伝え、相手の気持ちに気付き、友だちとの関りを深めよう  
自ら生活や遊びに取り組み、得意なことを見つけよう  
(人とのかかわりの中で、相手に対する愛情と信頼感、そして人を大切にする思いやりの心を育てるとともに、自主、協調、協働の態度を養い、道徳性の芽生えを培う)
- ・ 5歳児 生活の中で互いの気持ちを知り、認め合い、優しさや思いやりの心を持つとう・意欲的に様々な体験をする中で達成感を味わい自信に繋げよう  
(人とのかかわりの中で、相手に対する愛情と信頼感、そして人を大切にする思いやりの心を育てるとともに、自主、協調、協働の態度を養い、達成する喜びと充実感により自己肯定感を育て、仲間と協働して達成する中で社会性を身につけ・豊かな心情や思考力の基礎を培う)

A → よくできた B → できた C → 一部改善が必要 D → 改善が必要

### ☆取り組み状況

* 乳児保育において特定の保育者との応答的な関わりをもつことで信頼関係、愛着関係を育てることを重点的に行うようにする	C
* 少人数担当制を行っている他の施設への乳児保育担当者の見学、勉強会への参加、研修会への参加を行い、本園の保育過程の見直しに繋げる	C
* 幼児保育において少人数に分かれての活動を取り入れる	A
* 職員が保育理念・保育方針の共通理解をする	B
* 保育の振り返りをしながら今後へ生かせるようにしていく	C
* 保育環境の整備・充実	D
* 給食職員と保育士等が連携して食育を推進する	B
* 小学校や地域社会との連携を行う	A
* 実習生の受入	A

### ☆達成及び取り組むべき課題

- ・職員の職責により、子どもとの関りに差が生じてしまうことについて課題がある
- ・保育において誰かが指示をし個々が動くというよりも、すべての職員が経験知を出し合って、皆で話し合い試行錯誤しながら保育することが保育の質の向上にもつながる。そこには意見を言える・聴ける職員の関係性が必要である。
- ・全体の計画の見直しをする検討の場に各歳児担当者も交えて行っていきたい。
- ・幼児保育においても一人ひとりとの関わりを持つことができる人員配置であった。
- ・幼児保育で異年齢児保育（縦割り保育）を行う機会を多くしたことで、育ち合う様子が見られた。
- ・職員の僅かな保育感の違いが職員間の連携に影響があることが課題である。日々毎日クラス内で保育の振り返りをしながら統一できるよう職員間で協働していくことが必要である。
- ・乳児室の床にクッションマットを入れたことで、怪我の危険性を減らすことができ、粗大運動にも活用することができた。
- ・パーティションの追加購入で、少人数の保育に工夫ができるようになった。
- ・乳児の利用が多い一時預かりでは、保育環境の整備・充実のために、バウンサーやテーブル付き椅子の追加購入を行った。
- ・幼児クラスの園児用テーブルと椅子が老朽化してきたため、年長児クラス用を新しく形も考慮して購入したことで、子どものグループ活動に有効に活用できるようになった。また配置移動に保育者の負担軽減となった。
- ・玩具について、昨年度に一括購入できたが、子どもが主体的に遊べるよう配置することについて話し合いを重ねたが、さらに検討していかなければならない。
- ・食育担当の保育士と栄養士が連携をとり、保育の中で栽培した収穫物を加工し、行事に取り入れるという年間を通じての食育活動を行うことができた。
- ・旬の食材、季節感のある献立を取り入れるようにしている。
- ・毎日の給食の食材を子どもたちに紹介し、食の楽しさや体づくりに大切であることを伝えている
- ・給食担当者が7月からクラスに入り、給食を園児と一緒に食べ同時に食育活動を行った。
- ・園の畑で栽培、取れた野菜を収穫しクラスでクッキングしたり、年長児に給食の食材の下ごしらえに参加させたりしている。

- ・保護者が保育参加時に給食の試食も含めて行えたことで、食への関り、取り組みの様子を参観してもらえらる機会となった。
- ・保護者が保育者になって参加することで、担任と保護者の交流にもなり、集団生活の中の子どもの様子も見ていただける良い機会となった。
- ・近隣の小学校の教諭が参加し、保育園で合同研修会を行うことができた。
- ・地域の方に園の行事、避難訓練参加への声掛けを積極的に行っている。
- ・実習生の受入は、将来への人材育成との認識で積極的に行っている。
- ・実習記録への評価など担当職員の負担が増えることについて課題がある

## ② 健康及び安全について

### ☆取り組み状況・目標

#### 健康

* 園児の健康状態、発育及び発達状態の把握	A
* 感染症対策、職員の感染症への知識の共有	A

#### 安全

* 園庭遊具、砂場の安全点検ならびに修繕	B
* 防犯カメラ、AED、防災機器の点検整備	B
* 防災用品の購入	A
* 避難訓練の充実	B

### ☆達成及び取り組むべき課題

- ・保護者からの健康チェック表、連絡ノートによる把握をしているが、未記入の場合があるため防災上の観点からも記入の徹底が課題である。
- ・登園時の視診による健康観察、保育中にも視診を行い具合の悪そうな場合は検温したり、注意深く様子を観察するように心がけている。
- ・毎月身長・体重を測定し、乳幼児保健票のグラフ記載は保護者が行い、園医への質問等子どもの発育について連携して見守っている。
- ・感染症の発生時の家庭への周知、予防対策への協力を速やかに行った。
- ・全職員園内研修会において保育所における感染症ガイドラインの周知を行った。
- ・看護師が市内合同研修会に参加し、各園の乳幼児の保健情報を交換している。この情報を活用して保護者や地域へさらに発信していくことが課題である。
- ・アレルギー児への給食の対応について、保護者との詳細な連携ができた。
- ・毎日園内の遊具及び設備等の点検を職員が行い、不備がある場合は都度改善をしている。
- ・専門業者に依頼し、園内の遊具点検及び砂場の細菌検査を年一回行う。
- ・点検の結果、複合大型遊具のつり橋踏み板が疲労、亀裂があったので交換修理を行った。
- ・つり橋歩行部分、取付金具、踊り場床板の隙間解消、フェンス支柱の補強修理を行った。
- ・防災用に携帯無線機を3台購入し、緊急時の連絡用とする。
- ・警察に依頼し、不審者への対応訓練を行った。自動ドア及び送迎通用門の施錠の徹底を行う。
- ・年間の避難訓練計画に基づき、全園児と職員が訓練に参加「自分の身は自分で守る」という意識が徐々に身についている。

## ③ 子育て支援について

### ☆取り組み状況・目標

* 保護者の気持ちを受け止め、保育園と保護者の相互理解を図る	C
* 地域や関係機関と連携して子育て支援をする	B

#### ☆達成及び取り組むべき課題

- ・園での子どもの様子、保育内容を保護者に対して十分に伝えきれていないので、ICT 化を徐々に進めると同時に、職員が伝える手段として、パソコンをいつでも使えるようにしていきたい。
- ・年間行事については、子どもたちに経験して欲しい活動を、負担にならないように組んでいる  
また、保護者への負担を考え、行事の見直しをしたが、保護者の思いを聴きさらに検討していく。
- ・保護者の状況、就労への配慮が十分とは言えないところがあった。
- ・家ではできない活動や経験ができるよう工夫した。
- ・できるだけ多くの職員がキャリアアップ研修に参加できるようにした。
- ・一時預かり事業ではできるだけ多くの子育て家庭の支援ができるようにした。
- ・一時預かり事業でも写真を活用し、一日の様子を利用者へ伝えることができた。

#### ④ 組織運営について

##### ☆取り組み状況・目標

* 職員への情報の取り扱い方針の周知	B
* 職員への就業規則の周知	A
* 職員の資質向上	B

#### ☆達成及び取り組むべき課題

- ・個人情報取り扱い、守秘義務については徹底してきている。ただし連絡帳の取り扱いについて再度徹底が必要である。
- ・保育士等処遇を確保する観点から俸給表の改正等給与規程を一部改正すること、労働基準法改正に伴う有給消化推進のための就業規則改正について全職員に周知した。
- ・できるだけ保育の課題に即した研修に参加できた。
- ・研修で得た知識や技能を全体で共有する機会がまだまだ足りないことが課題である。

#### 《 全体を通しての自己評価 》

- ・全体の計画については新しく見直したが、十分に検討することができなかつたのが反省である。
- ・新しい保育の取り組みをしてきているので、そこから見えてくる課題を一つひとつ話し合いながら徐々に深め、専門性に裏付けされた若草保育園らしい新しい保育を確立させる。
- ・子どもの発達連続性を考慮した保育(養護と教育)を常に意識し、小学校に向けて学びの基となる力を身につけさせていく。小学校教諭との合同研修により、それぞれの立場の理解が深まり、保育の方向性も確認する良い機会となった。さらに連続性を意識することで、ひとりの子どもの成長を深く見る眼ができていくように思える。小学校へ繋げる保育要録の見直しを深めている。
- ・保育内容については、異年齢児との保育活動など一斉活動の良さも生かして、社会性を身につけるように促していきたい。
- ・子どもの主体的な遊びができる環境を工夫することにさらに力を入れたい。
- ・保護者へ向けて、園での子どもたちの様子と保育の展開について写真の掲示を行ったり、発信の方法を考えてきたが、パソコンの台数が限られていることが課題のひとつでもある。

- 保健管理についてはおおむね徹底できている。引き続き保護者にも協力をお願いして感染症対策をしていきたい。嘔吐を伴う感染症については、特に保護者の協力によるところが大きく。園としてもありがたく、感謝したい。
- 保護者アンケートに外部からの侵入に対しての不安の意見が多数あった。警察にも協力を得ながら不審者対策の充実を図った。保護者にも協力していただき玄関施錠については徹底している。
- 職員が特別支援について学ぶ機会（専門機関からの助言）をもち保育に生かすことができた。
- 専門機関へどのようにつなげていくか（橋渡し）が課題である。
- 一時保育事業では「子育て」の不安をかかえる家庭への援助の必要性が高まっている。できる範囲で職員の負担にならないようにしながら、保護者の「子育て」のストレスを軽くする受入をしている。
- 職員の自己評価により、ひとり一人を丁寧に優しいまなざしで寄り添いながら保育していきたいと感じている保育者がほとんどである。また、自分自身の生活も大切にしながら仕事をしたいというところから、職場環境・職員の処遇面にも改善をしていくことが必要であり、ライフ・ワーク・バランスを意識し生活と仕事を両立しながら、いきいきと働き続ける職場の実現に向けていくことが事業所としての課題である。